



# 「豊かな環境・資源・文化をはぐくむ森林」の 実現をめざして



豊田市長 太田 稔彦

2000年9月、愛知県、岐阜県南部、長野県南部は未曾有の豪雨にみまわれました。東海豪雨（恵南豪雨）です。矢作ダムでは緊急の大放水が行われ、下流の小学校や体育館等が浸水被害を受け、矢作川の水位は豊田大橋付近で堤防を越える寸前までに至りました。上流の人工林がもう少し整備されていれば、状況は違っていたのではないかと、この被災体験が原点となり、豊田市が森づくりに本格的に乗り出すきっかけになりました。

本市は、2007年3月に「豊田市森づくり条例」を制定し、さらに「豊田市100年の森づくり構想」で、本市が森づくりに積極的に取り組んでいく姿勢を明確にしました。それから10年が経過し、人工林の間伐や普及啓発活動などを着実に進めてきた一方、全国的には豪雨災害が相次ぎ、木質バイオマスなど木材需要は拡大し、地方税財政制度が変更されるなど課題も生まれました。

この度、これら環境変化を踏まえた新しい方針として、「新・豊田市100年の森づくり構想」を策定しました。これにより、本市の森づくりは、これまでの取組を基盤として新たなチャレンジを開始する「第2ステージ」に突入します。

「森づくりは100年の計」と言われています。100年先を見据え、「豊かな環境・資源・文化をはぐくむ森林」の実現を目指して、森林所有者の皆様はもとより、森林組合や多くの市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

最後に、構想の策定に多大なご尽力をいただきました「とよた森づくり委員会」をはじめ、関係者の皆様に厚くお礼を申し上げるとともに、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2018年3月